

関西自然保護機構会誌投稿規定

- 1 **刊行の趣旨** 関西自然保護機構は、「関西地方を中心とする自然の保護と自然環境の保全の方策を調査し、研究し、必要な提言、助言を行う」（本会会則第2条）ことを目的としており、機関誌として関西自然保護機構会誌（以下会誌という）を年2回刊行し、自然保護と保全に関する研究成果や基礎資料・情報を発信して、持続的な生存基盤としての良好な自然環境の保護と保全に貢献することを目指します。
- 2 **報文の類別** 自然保護および保全に資する原著論文、短報、総説、資料、報告、意見、書評（以下報文という）及び会記を会誌に掲載します。
 - （1）原著論文は内容が独創的で、学術論文として価値ある結論を含むもの。
 - （2）短報は内容が独創的で、学術論文として価値ある結論を含むが、まだ断片的あるいは萌芽的研究であり、速報性を重視し、刷り上がりがおおむね4ページ以内のもの。
 - （3）総説は自然保護および保全に関する各分野の研究成果を示しながら解説し、問題点と展望などを総括したもの。
 - （4）資料はデータそのものに公表の価値があると判断できるもの、あるいは有益な学術情報に関する報告で、いずれも解析や考察を伴わないもの。
 - （5）報告は自然保護活動、研究活動あるいは各種会合の報告など、記録として残す価値のあるもの。
- 3 **投稿資格** 投稿者の少なくとも一人は会員とします。ただし編集委員長の依頼原稿はこの限りではありません。
- 4 **投稿の方法** 報文原稿は、以下の2つの方法のいずれかで投稿してください。いずれの場合にも、原稿には所定の「投稿原稿送付状」を添付してください。
 - （1）本文をワードファイル（または一太郎ファイル）に、表および図の全てを1つのpdfファイルにまとめて、電子メールに添付して送付する。
 - （2）本文、表、図の全てを2部（うち1部は複写物で可）印刷し、電子ファイルをCDなどの電子媒体に記録して郵送する。
- 5 **原稿の送付** 原稿送付や会誌に関する問い合わせは、別に定める編集事務局とします。
- 6 **原稿の受付** 別に定める執筆要領にしたがって書かれた報文原稿を受け付けます。編集事務局に届いた日をもって受付日とします。
- 7 **審査** 受け付けられた原著論文、短報、総説、および資料の原稿は編集委員を含む複数の査読者によって審査されます。原稿の内容について編集委員長は、査読の結果に基づいて著者に修正を求めることができます。編集委員長が掲載不適当と判断した報文原稿については判断の理由を明記して著者に返送します。原著論文、短報、総説、および資料以外の報文でも、編集委員長が必要と認めた場合には審査に付すことがあります。
- 8 **受理** 審査に付された報文は審査結果を基に、編集委員長が掲載可と認めた日付をもって報文の受理日とします。審査に付されなかった報文は報文受付日を受理日とします。受理された報文原稿については、本文図表など全てを印刷したもの2部（うち1部は複写物で可）とともに、指定した書式の電子ファイルをCDなどの電子媒体に記録して編集事務局に送付してください。

- 9 校 正 著者校正は原則として初校に限って行い、誤植の訂正にとどめてください。
- 10 印刷費等の著者負担 報文印刷は16頁までを無料とし、超過分は原則として著者負担とします。別刷りは50部までを無料とし、それを超えた分は著者負担とします。これらの費用負担額については執筆要領に定めます。図及び写真のカラー印刷および英文校閲は、実費とします。
- 11 著作権の帰属 会誌に掲載される著作物の著作権（著作権法第21条から第28条までに規定するすべての権利を含む）は原則として、本機構に帰属します。
- 12 著作権利用の許諾 本機構に帰属する著作権を利用する場合は、本機構の許諾を必要とします。掲載論文中の図表等を自著の出版物に掲載する場合にも、本機構の許諾が必要です。ただし、会誌報文の著者は、著作者個人あるいは著作者所属組織などのウェブサイトなどにおいて、自らの著作物を本学会刊行物である旨の出典を明記して自由に掲載できるものとします。また、本機構は学術目的のために、著作権の一部を第三者に行使させる権利を有します。これら、著作権の利用・行使にともない、本機構に対価の支払があった場合には、本機構会計に繰り入れるものとします。
- 13 規定の改訂 この規定は2009年6月1日以降に投稿された論文から適用します。この規定は会誌の各巻の1号に掲載します。この規定の改訂は編集委員会の議を経て、運営委員会の承認を得て行うものとします。

(2009年5月20日改訂)

関西自然保護機構会誌執筆要領

- 1 報文原稿は和文または英文としてください。
- 2 和文原稿は1) 和文標題, 2) 和文著者名, 3) 和文所属(無くても良い), 4) 英文標題, 5) 英文著者名, 6) 英文所属(無くても良い), 7) 英文要旨(200語程度), 8) 和文要旨(800字以内), 9) キーワード(5語以内で、日本語と英語の両方を記す), 10) 本文, 11) 引用文献, 12) 図版の説明, 13) 表, 14) 図の順に記述してください。付表等がある場合は末尾に加えて下さい。謝辞は原則として本文中の序文にあたる項目の最後に記してください。総説, 資料, 報告, 意見, 書評については、英文要旨およびキーワードは省略して構いません。
- 3 英文原稿は1) 英文標題, 2) 英文著者名, 3) 英文所属(無くても良い), 4) 和文標題, 5) 和文著者名, 6) 和文所属(無くても良い), 7) 英文要旨, 8) 英文キーワード(アルファベット順に5語以内), 9) 英文本文, 10) 英文引用文献, 11) 和文要約(1400字以内。執筆者が外国人の場合は無くても良い)の順に記述してください。謝辞は原則として本文中の序文にあたる項目の最後に記してください。総説, 資料, 報告, 意見, 書評については、英文要旨およびキーワードは省略して構いません。
- 4 和文原稿はA4版用紙に12ポイントの活字を用いて30文字×30行で作成してください。
- 5 英文原稿はA4版用紙に12ポイントの活字を用いてダブルスペースでタイプし、約60文字25行で作成してください。
- 6 用語の表記については文部科学省学術用語集等に準じてください。和文原稿で生物の和名はカタカナ、学名はイタリック体で表記してください。和文原稿での岩石・鉱物名については漢

字名称のある場合はそれを用いてください。

7 度量衡の単位はmks単位ではなく、SI単位系の表記を原則としてください。

8 引用文献は原則として本文中に引用されたものに限り、かつ引用されたものすべてを記してください。文献の配列の順序は原則として著者名のアルファベット順とします。また著者が同一のものについては発表の年代順とし、同一著者の同一年のものについては年号のあとにアルファベットを付して2006a, 2006bのように区別してください。各種文献の記載方法については、以下の例に従ってください。

有田八郎. 1981. 野鳥とスズメの個体数比率による自然度の判定. 関西自然保護機構会報, 6: 1-6.

Hubbell, S. P. & R. B. Foster. 1983. Diversity of canopy trees in a neotropical forest and implications for conservation. In: Tropical rain forest: ecology and management. (eds. Sutton, S. L., T. C. Whitmore, & A. C. Chadwick), pp. 25-41. Blackwell, Oxford.

北村四郎・村田源. 1979. スダジイ. 「原色日本植物図鑑木本編II」(北村四郎・村田源著), pp. 278-279. 保育社, 大阪. (注1 図鑑の中のスダジイの項目のみの引用例).

——・——. 1979. 原色日本植物図鑑木本編II. 545pp. 保育社, 大阪. (注2 図鑑全体の引用例).

Lack, D. 1968. Ecological adaptation for breeding in birds. 409pp. Methuen, London.

May, R. M. (ed.). 1976. Theoretical ecology: principles and applications. 317pp. Blackwell, Oxford.

マックスウェル, K. E. 1974 (小泉明ほか監訳, 1974). 生命の環境・下. 604pp. 講談社, 東京.

前田保夫. 1980. 臨海平野の表層部に残る縄文海進の記録. 月間地球, 2(1): 1-6.

三浦慎悟. 1980. 奈良公園における日本ジカの社会構造. オスの社会組織. 「昭和54年天然記念物「奈良のシカ」調査報告」((財)春日顕彰会編), pp. 1-11. (財)春日顕彰会, 奈良.

中村登流. 1973. 鳥獣の世界から. 「自然保護を考える」(信州大学教養部自然保護講座編), pp. 95-113. 共立出版, 東京.

Tanaka, A., Y. Yamamura & T. Nakano. 2008. Effects of forest-floor avalanche disturbance on the structure and dynamics of a subalpine forest near the forest limit on Mt. Fuji. Ecological Research, 23: 71-81.

9 インターネット上の資料の安易な引用は極力控えてください。ウェブサイト上の情報を引用する場合には、サイトの信頼性に十分留意し、本文中に管理者(発行者)、アドレス、参照年月を明記してください。引用文献のリストには記載せず、記述は下記の例および最新号の形式に準じてください。

例) 気象庁アメダス (URL: http://www.jma.go.jp/jp/amedas_h/ 2003.9参照) に掲載されている2008年の降水量データから算出した。

10 表は1つずつ別紙に書き、1表の大きさは原則として1ページに印刷できる限度以下とします。表の説明はその上部にまず「表1」と書き、ついで表題をあげたのち、本文をよまなくても理解出来る程度に説明を加えてください。なお本文中にその表を置きたいおよその位置の原稿右欄外に「表1」のように朱書きしてください。

- 11 図（写真を含む）はできるだけ少数にとどめ1つずつ別紙としてください。図はそのまま製版できる状態としてください。図は印刷されるときの大サイズの1.5倍ないし2倍大（長さで）としてください。薄手の用紙に書いた場合は白色の厚手台紙に貼ってください。また上端欄外に図の番号と著者名を朱書きしてください。図の説明は別紙にまとめて書き、その紙に本文に続く通しのページ数を打ってください。各図の説明は、まず「図1」のように書き、ついで表題をあげたのちに、本文を読まなくても理解できる程度に説明を加えてください。なお本文中にその図を置きたいおよその位置の原稿右欄外に「図1」のように朱書きしてください。
- 12 投稿の際には投稿原稿送付状（会誌各巻1号あるいは本会ウェブページに掲載）を添付してください。
- 13 原図の送付は、査読終了後の最終原稿送付時とします。
- 14 無料分の別刷り50部を除く、有料分の必要別刷り数を50部単位で注文表に記載してください。
- 15 刷り上がり16ページを超過した場合、1ページあたり5,000円とし、原則として著者負担とします。別刷りは50部までを無料とし、それを超えた分は1部100円とし、著者負担とします（増加分は10部単位で申し込んでください）。
- 16 著者校正で本文や図表を変更することは原則として認めません。
- 17 この要領は会誌の各巻の1号に掲載し、2009年5月20日以降に投稿された原稿から適用します。要領の改訂は、編集委員会の議を経て行います。
- 18 会誌編集事務局を下記におきます。

（2009年5月20日改訂）

会誌編集事務局

〒574-8530

大阪府大東市中垣内3-1-1

大阪産業大学大学院人間環境学研究科（前迫研究室）

電話 072-875-3001

FAX 072-871-1259

E-mail maesako@due.osaka-sandai.ac.jp

* 原稿受付番号 _____

(* 印は編集事務局が記載しますので、それ以外の部分をご記入ください。)

「関西自然保護機構会誌」投稿原稿送付状

和文著者名・所属名 _____

和文表題 _____

英文著者名・所属名 _____

英文表題 _____

原稿種別 (原著・短報・総説・資料・報告・意見・そのほか) ※いずれかを○で囲む

原稿枚数 本文 _____ 枚, 表 _____ 枚, 図 _____ 枚

発送年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

原稿返却 (希望する・希望しない) ※希望する場合には、切手を貼った返信用封筒を添えてください。

別刷希望部数 _____ 部

連絡先

住所〒 _____

氏名 _____

電話/FAX _____

E-mail _____

備 考

※原稿送付にあたってのお願い。原稿は投稿規定にしたがって作成されたかどうか、また図表番号に間違いがないかなどをもう一度確認してください。送付状を添付のうえ、原稿を送付してください。

* 受理日 _____

<編集後記>

投稿規定改定を機に、投稿論文増加を期待して

KONCの現地見学会が、7月5日に和泉の信太山（しのだやま）で開催されました。6月号の編集後記で7月の行事を語るのは、いささか気がひけますが、大阪に残る数少ない湿地でのフィールドワークは、ひじょうに有意義なものでした。詳細については、次々号に譲りますが、モウセンゴケ、コモウセンゴケ、イシモチソウ、スイラン、カキランなどの開花と生育地を久しぶりに見るだけでなく、昆虫、魚類、植物などさまざまな分野の研究者が集い、信太山の湿地を保全・管理する方々と意見交換できたのは、KONCならではの企画といえます。いまや希少種だけではなく、湿地を構成する植物群集およびそこに生息する生物群集すべての保全を目指さなくてはならないほどに、日本の湿地は危ういのが現状といえます。この信太山に断片的に残る湿地の現状と管理については、今後、本誌で詳細にとりあげたいと考えています。

さて、今号の特集には、2008年11月に開催された「かんさい自然フェスタ2008－楽しみ・伝え・まもる私たちの自然－」で行われたシンポジウム特集の第一弾を掲載しています。本号では、「開発から自然を守るには－開発計画への予防と対策－」に関連して、中瀬氏、森氏が、「自然保護運動に役立つ自然保護教育とは」に関連して、布谷氏、高島氏が、「シカが森を喰べ尽くすまえに－研究から保全への展開をさぐる－」に関連して、常俊氏と前迫の記事が掲載されています。次号には、「大阪湾の自然再生をめざすネットワーク活動の方向性を考える」、「近畿地方における外来種問題への取り組み」、「カエルのきもちを忘れない」、「タンポポセミナー」などの記事を掲載予定です。ご期待ください。

さいごに、2000年6月号以来、9年ぶりに投稿規定と執筆要領の改訂を行ったことを報告させていただきます。市民から研究者まで幅広く研究論文などの記事を投稿いただき、迅速かつ的確な査読体制のもとに、本誌に良質な記事を掲載することをコンセプトとして、編集委員会で検討を重ね、改訂版を作成しました。会員のみならずの研究と活動の成果を本誌に投稿いただきますよう、あらためてお願いいたします。暑い夏を元気におすごしください。

（前迫ゆり）